

週間感染症情報

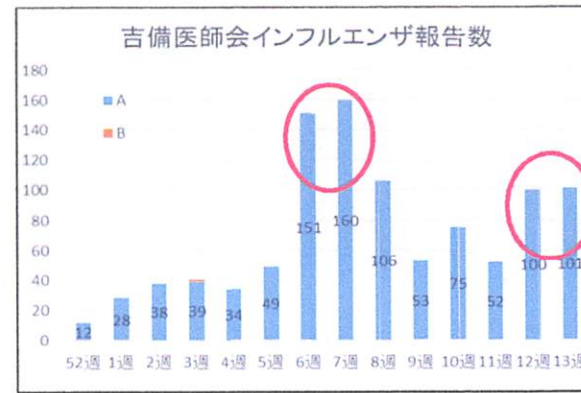
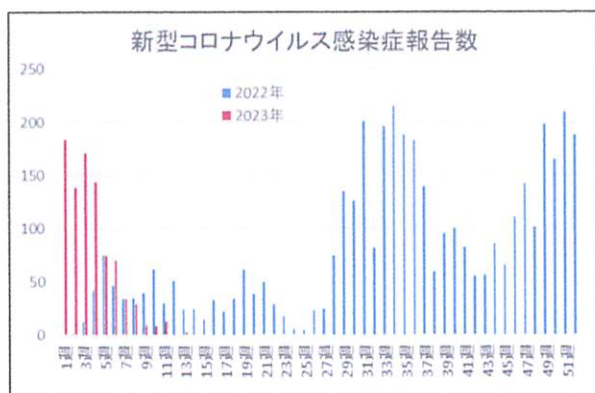
2023年9-13週 2023年2月27日より2023年4月2日まで

9週 10週 11週 12週 13週

麻疹					
風疹					
水痘(みずぼうそう)	2		1		1
ムンプス(おたふくかぜ)					
百日咳					
溶連菌感染症	2	4			1
手足口病					
ヘルパンギーナ		1		1	
伝染性紅斑					
感染性胃腸炎	27	28	31	21	8
ロタウイルス(再掲)					
便アデノウイルス(再掲)					
突発性発疹	2	2	1		
伝染性膿痂疹(とびひ)	2	1	1	1	3
ヘルペス性口内炎					
アデノウイルス感染症	3	3			1
RSウイルス感染症	10	5	2	2	
マイコプラズマ感染症					
ヒトメタニューモウイルス					
インフルエンザ	53	75	52	100	101
インフルエンザ A	53	75	52	100	101
インフルエンザ B					
新型コロナウイルス感染症	9	8	12	0	2

遅くなりましたが、2023年9週から13週の5週間の報告です。新型コロナウイルス感染症の報告は2023年に入り減少しています。特に3月になり、発熱外来の受診者は減少して、陽性率も低下しています。このまま減少が続けばいいのですが、インド、英国などでは新しい株の流行が始まっています。また、全国的に3月終わりごろより報告数が増加しています。5月の連休明け頃より始まるとされる第9波が心配されます。

3学期になり増加したインフルエンザAの報告ですが、市内での大きな流行になることはなく、春休みに入り終息しそうです。6~7週にかけてのピークは、西中・東中の部活を介しての流行です。学級閉鎖が出ましたがコロナに対する感染対策もあり、小学校での大きな流行は起きませんでした。12~13週の増加は、保育園のクラス内流行です。総社市の保育園では、インフルエンザでの学級閉鎖はありません。発熱で早退した園児が出たクラスでは、大半の園児が感染しています。感染対策として、クラス単位での保育が行われており、クラス内流行で終息しています。2日程度で家族内感染を起こしており、小児の場合は休んで経過を見てほしいです。感染性胃腸炎は、減少しています。発熱で発症して、コロナと鑑別を要するカンピロバクター腸炎をみかけます。乳幼児の間では、RSウイルス、アデノウイルスなど、コロナやインフルエンザ以外の感染症をみかけます。小児の予防接種率の低下が心配です。コロナも含めてワクチンで予防できる病気はワクチンで防ぎましょう。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)